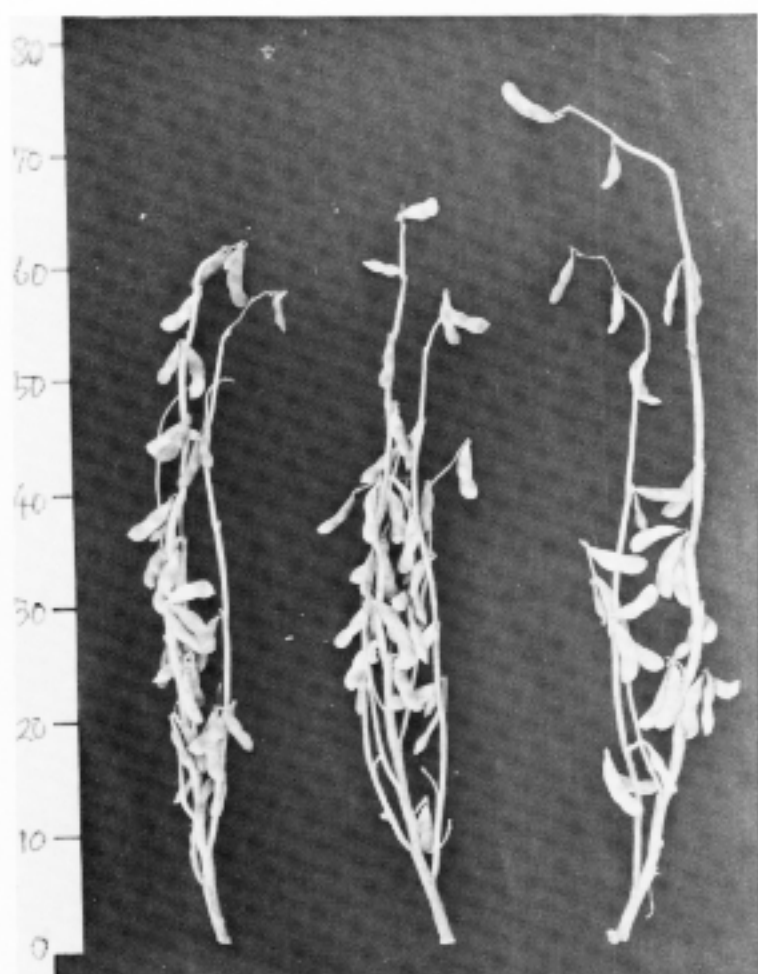


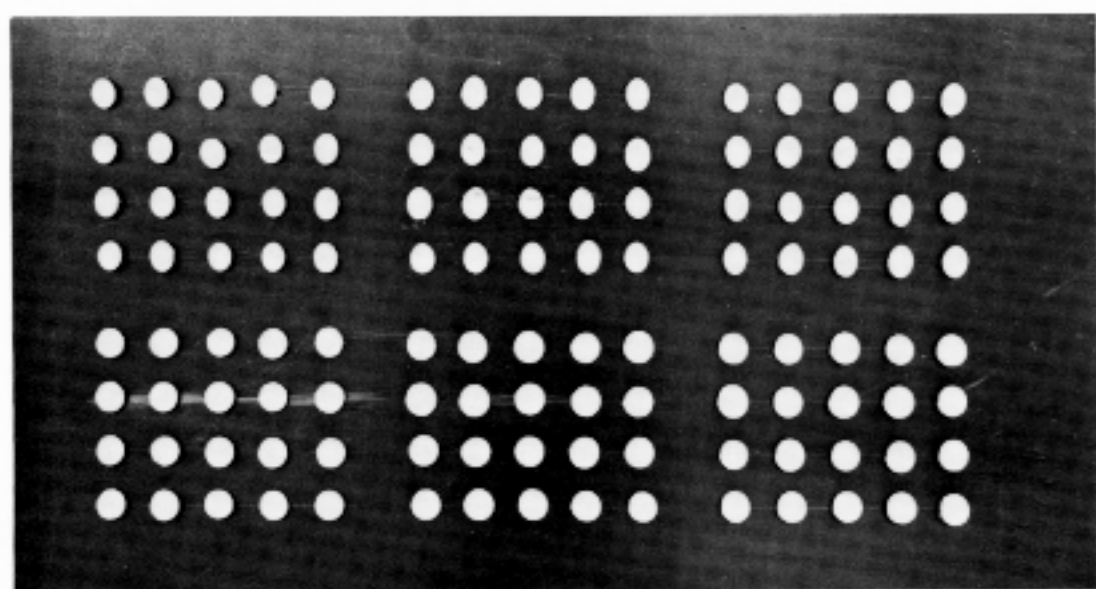
[ユウヅル]



早生鶴の子

ユウヅル

白鶴の子



早生鶴の子

ユウヅル

白鶴の子

ユウヅル

登録番号 大豆農林 55号
登録年月 昭和 46年 5月
旧系統名 大豆中育3号
育成場所 道立中央農業試験場

1. 来歴ならびに育成経過

「ユウヅル」は昭和41年道央、道南、東北（青森、岩手）より収集した大豆在来種のうち、北海道食糧事務所苫小牧支所が見本品として所有していた新冠町産の「鶴の子」より分離固定をおこなった純系分離系統である。昭和43年「中系3号」の系統番号で生産力検定予備試験をおこない、翌44年より「中育3号」の系統名を付し、育成系統地域適応性検定試験、生産力検定試験、奨励品種決定基本調査、同現地調査をおこなった。昭和45年には栽植密度と施肥量に関する特性、マメシンクイガに対する特性、ダイズわい化病に対する特性の各調査をおこなった。

(系 統 図)

鶴の子（在来種）——ユウヅル
（新冠町産）

2. 形態的特性

「白鶴の子」に比べ、茎長は短く、主茎節数は少ないが分枝数は多く着莢数も多い。小葉の形は円葉で葉脈間の起伏がやや大きい。花色は白で、毛茸は灰白色、莢色は褐色である。

子実は「白鶴の子」と同じく、やや扁球形で種皮色は黄白、臍色は黄ないし極淡褐である。粒大は「白鶴の子」なみで鶴の子銘柄に属する大粒種である。種皮の亀裂は「白鶴の子」に比べやや少ない。

3. 生態的特性

開花期は「白鶴の子」に比べ数日早く、成熟期は「早生鶴の子」よりやや早い。

収量は「白鶴の子」より20%程度多収で「早生鶴の子」にもまさる。

耐倒伏性は「白鶴の子」に比べて強く、「早生鶴の子」にややまさる。マメシンクイガの被害は「白鶴の子」よりやや少なく、「早生鶴の子」よりやや多い。ダイズわい化病に対しては一般品種と同様に抵抗性はないが、「白鶴の子」に比べ発病率は少ない。

4. 子実成分

粗蛋白は「白鶴の子」よりやや少なく、「早生鶴の子」より多い。粗脂肪は「早生鶴の子」より少なく、「白鶴の子」よりやや多い。

5. 適 地

石狩，空知の中南部，後志南西部，胆振，日高，渡島，檜山地方に適応する。対照品種は「白鶴の子」「早生鶴の子」などでこれらの品種の栽培される地域の多収性品種として適応する。

6. 奨励品種採用県

北海道（昭和46年）

7. 栽培上の注意

ユウゾルは「白鶴の子」なみの粒大であり，発芽は中，小粒のものに比べておくれ，また発芽率はやや低いので薬剤（ECP・チウラム粉剤）を粉衣し，播種量もやや多くすること。またダイズわい化病には他の優良品種と同様，強くないので，防除をおこなうこと。マメシンクイガの被害は「鶴の子」に比べてやや少ないが，大粒種は概して被害が大きく品質を著しく減ずるので8月下旬に防除をおこなうこと。「白鶴の子」に比べて茎長の短い「ユウゾル」は特に疎植においてその多収性を発揮し得ないので，10 a当り8,000株程度の株数を確保すること。

その他は「白鶴の子」，「早生鶴の子」の栽培に準じておこなえばよい。

8. 試験成績

(1) 特性及び生育調査成績（昭和43～45年，3カ年平均）

品 種 名	開 花 期 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	結 実 日 数 (日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	分 枝 数	主 茎 節 数	粒 茎 比
ユウゾル	8.1	10.15	75	中	67	4.9	14.5	0.78
白鶴の子	8.3	10.23	81	甚	82	4.0	15.1	0.51
早生鶴の子	8.3	10.18	76	多	69	4.8	15.5	0.65

注 「早生鶴の子」は昭44～45年の2カ年平均。

品 種 名	胚軸色	小葉の形	花 色	毛茸色	莢 色	粒 形	粒 大	種皮色	臍 色	虫 害
ユウゾル	緑	円	白	白	褐	やや扁球	極大	黄白	黄	多
白鶴の子	緑	円	白	白	褐	"	極大	黄白	黄	多
早生鶴の子	緑	円	白	白	褐	"	極大	黄白	黄	多

(2) 収量調査

ア 標準栽培

品 種 名	子 実 重 (kg/a)				対 標 準 比 (%)			
	昭 43	昭 44	昭 45	平 均	昭 43	昭 44	昭 45	平 均
ユウゾル	29.2	21.4	25.1	25.2	111	132	124	120
白鶴の子	26.4	16.2	20.3	21.0	100	100	100	100
早生鶴の子	-	20.5	24.4	22.5	-	127	120	123

イ 栽植密度および施肥量試験

品 種 名	栽植密度	施肥量	子実重 (kg/a)	対標準比 (%)
ユウヅル	標準	標肥	23.8	100
	疎植	3倍肥	22.7	94
	標準	標肥	19.8	83
	疎植	3倍肥	21.8	92
白鶴の子	標準	標肥	19.0	100
	疎植	3倍肥	20.4	107
	標準	標肥	17.4	92
	疎植	3倍肥	18.6	98
早生鶴の子	標準	標肥	24.3	100
	疎植	3倍肥	21.6	89
	標準	標肥	18.5	76
	疎植	3倍肥	20.1	83

注 1 栽植密度：標準は60×20cm, 833株/a, 疎植は60×30cm, 556株/a, いずれも1株2本立。
 2 施肥量：標肥はa当り(kg) N:0.2, P₂O₅:0.6, K₂O:0.5, MgO:0.15, 3倍肥は標準肥の3倍量施用。

(3) 特性検定試験成績

検 定 名	項 目	ユウヅル	白鶴の子	早生鶴の子	実 施 場 所
マメシグイガ抵抗性	平均虫食粒数率(%)	13.4	15.3	11.1	中央農試原々種農場 (昭和45年)
	判 定	弱	弱	弱	
ダイズわい化病抵抗性	発病率(%)	7月31日	11.9	24.1	中央農試 (昭和45年)
		8月14日	18.4	34.8	
	判 定	弱	弱	弱	

(4) 品質調査成績

品 種 名	100粒重 (g)	粒の整否	裂皮の 多 少	粗 蛋 白 質 (%)			粗 脂 肪 (%)			品 質
				昭 44	昭 45	平 均	昭 44	昭 45	平 均	
ユウヅル	41.3	整	無	42.93	37.55	40.24	21.81	21.14	21.43	上 中
白鶴の子	41.7	整	無	43.10	40.61	41.86	20.23	22.23	21.43	上 中
早生鶴の子	34.6	整	無	40.65	38.24	39.50	23.53	22.97	23.25	上 中

注 100粒重は昭43~45年の平均, 粗蛋白, 粗脂肪の分析は北海道農試。

9. 配布先における成績

(1) 中央農試原々種農場における成績(北海道滝川市)

品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏	主 茎 長 (cm)	分 枝 数	子 実 重 (kg/a)	対 標 準 比率(%)	100粒重 (g)	品 質
ユウヅル	7.31	10.13	中	69	3.7	20.7	107	41.9	上 中
白鶴の子	8.1	10.14	多	80	4.4	19.3	100	41.7	上 中
早生鶴の子	7.31	10.14	多	69	4.0	19.0	98	36.8	上 中

注 昭和44~45年2カ年平均。

(2) 道立道南農試における成績(北海道大野町)

品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏	主 茎 長 (cm)	分 枝 数	子 実 重 (kg/a)	対 標 準 比率(%)	100粒重 (g)	品 質
ユウヅル	7.30	10.7	少	76	3.0	27.7	117	42.3	中 上
白鶴の子	8.1	10.16	少	75	2.9	23.7	100	43.6	上
早生鶴の子	7.31	10.7	少	75	3.4	28.3	119	36.1	上

注 昭和44~45年, 2カ年平均。

(3) 現地試験における成績 (昭和44～45年, 2カ年平均)

場所	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏	主茎長 (cm)	子実重 (kg/a)	対標準 比率(%)	100粒重 (g)	品質
新冠町	ユウヅル	8. 1	10.12	少	73	25.8	125	40.6	上中
	白鶴の子	8. 1	10.17	少	79	20.7	100	40.7	上中
	早生鶴の子	8. 3	10.14	中	77	26.3	127	36.8	上下
穂別町	ユウヅル	8. 1	(10. 9)	無	77	24.1	134	43.6	上下
	白鶴の子	7.31	(10.13)	少	90	18.0	100	39.9	上下
	早生鶴の子	7.30	(10.11)	中	79	22.2	123	35.0	上下
伊達町	ユウヅル	—	(10. 8)	—	70	19.5	130	42.7	上中
	白鶴の子	—	(10.10)	—	86	15.0	100	41.4	上下
	早生鶴の子	—	(10. 5)	—	71	19.7	131	36.9	上下
共和町	ユウヅル	8. 4	10. 9	甚	63	18.3	110	36.7	上中
	白鶴の子	8. 4	10.15	多	66	16.7	100	36.9	上中
	早生鶴の子	8. 4	10.10	多	63	16.9	101	30.8	上下
北檜山町	ユウヅル	7.31	10. 8	無	59	27.4	176	44.2	上上
	白鶴の子	8. 2	10.15	無	65	15.7	100	43.0	上下
	早生鶴の子	8. 1	10.13	無	62	22.7	145	38.2	中上
八雲町	ユウヅル	8. 5	9.29	無	64	16.3	154	(34.8)	上上
	白鶴の子	8.10	10. 5	無	73	10.6	100	(33.3)	上下
	早生鶴の子	8. 7	10. 1	無	62	15.3	144	(31.3)	上中

注 穂別町および伊達町の成熟期は昭和45年のみ値。八雲町の100粒重は昭和44年のみ値。

10. 育成従事者

年次	育成従事者	備考
昭 41	小山八十八, 諏訪隆之, 砂田喜与志, 千葉一美, 旭川清一	
42	“ “ 谷村吉光 “	
43	“ “ “ “	地方番号
44	長内俊一 “ “ “	“
45	“ 森 義雄 “ “ 志賀義彦	“